



色を漕ぐ／山本聖子

色を漕ぐ

Swimming in Colors

山本聖子

yamamoto seiko exhibition

2016年9月10日 | 土 - 9月25日 | 日 11:00~19:00 ●月曜休廊・金曜日は20:00まで



【広報画像01】
フライヤー掲載イメージ

Gallery PARC [グランマール ギャラリー・パルク] では、2016年9月10日 (土) から9月25日 (日) にかけて、山本聖子による個展「色を漕ぐ: Swimming in Colors」を開催いたします。

2004年に大阪芸術大学芸術学部美術学科立体コースを卒業、2006年に京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術表現専攻を修了した山本聖子 (やまもと・せいこ 1981年京都生まれ) は、おもに彫刻・インスタレーション作品の発表により、2011年には六甲ミーツ・アート芸術散歩2011公募大賞受賞、Tokyo Midtown Award 2011アートコンペグランプリ受賞などで注目を集め、以後も積極的に発表に取り組んでいます。また、近年ではメキシコ (2013~14年) やオランダ (2014年) など海外へのレジデンスに積極的に参加しており、その作品も彫刻のみならず映像・インスタレーションへと展開しています。

ニュータウンで生まれ育った山本は、画一的にデザインされた都市空間と、その中において不確かに揺らぐ自らの身体との違和感を覚え続けてきたといい、その不安や疑問に端を発したかのような作品を制作します。不動産チラシの物件間取りを切り抜き、ラミネートした後に再度切り抜いたピースを無数に接続し、圧倒的なサイズの面へと展開した『間取り図』作品は、無数の「画一」が集合した地平に、有機的で混沌とした美しさが潜むことを「探し・求めた」ものであるといえ、その探求は山本の感じる「都市と身体との不整合」を統合するための切実なものであったといえます。

また、2013~14年の海外でのレジデンスを契機に、この探求は個人的・平面的・物質的な視点から、様々な都市と人、その足元の大地や歴史などを含めた立体的な視点をもって展開されることとなります。2015年のGallery PARCでの個展「白い暴力と極彩色の闇」において、これまで作品の大きな要素となってきた身体性や物質性のあいまいさは、「色」という要素に重ねられ、より多層化したテーマとされました。

我々にとって身近で、かつ実はその正体を規定しえない「色」を作品の要素としたことで、山本の個人的な違和感や探求は、鑑賞者にとって様々スケールやリアリティでの読み替え可能なものとなりました。水槽の中に入れられた様々な色彩 (染められた紙片) が混じり合い、次第に「闇」となる作品《Darkness》や、自身のパフォーマンスにより、世界地図の上に立てられたカラフルな無数口ウソクが一斉に燃え盛り、黒く煤けた口ウソクが溶けて次第に世界を覆う様子を捉えた映像作品《極彩色の闇》などは、山本の内なる感覚と世界が「ただ」ようやく繋がったものとして見ることができます。

本展覧会「色を漕ぐ」は、こうした近年の山本の取り組みを引き続き展開させるものとなります。これまで、世界を水面に浮かぶ色の様相として「見渡す」かのように捉えていたのに対し、「漕ぐ」という能動的な言葉が接続された本展では、自身を含めた様々な色が混じり合い、うねり対流する世界を海という塊と捉えるとともに、そこに飛び込み、漕ぐという意志を持つ「私」のあり方によって、ふたたび世界と自分の存在を確認するものです。

色を漕ぐ

Swimming in Colors

山本聖子

yamamoto seiko exhibition

2016年9月10日 | 土 - 9月25日 | 日 11:00~19:00 ●月曜休廊・金曜日は20:00まで



【広報画像02】
フライヤー掲載イメージ

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上、[\[info@galleryparc.com\]](mailto:info@galleryparc.com)迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 色を漕ぐ Swimming in Colors

出展作家 山本聖子 yamamoto seiko
<http://www.seikoyamamoto.net/>

会期 2016年9月10日[土] - 9月25日[日] 11:00~19:00
*月曜日休廊・金曜日20:00まで

料金 無料

内容 【映像・インスタレーション】

美術家・山本聖子による個展。メキシコ、オランダなどでのレジデンスを経て制作された映像作品を中心に構成。新作となる映像インスタレーション《きみの内に潜む色》を発表のほか、過去作となる映像作品《"darkness"》《極彩色の闇》、未発表の映像作品《"からっぽ"の色》や、立体作品《私の身体の一部は、私の生まれた国に行ったことがない。》などもあわせて展示する。

会場 Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク] 〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル

アクセス 阪急河原町駅・三条京阪駅より徒歩10分、地下鉄東西線京都市役所前駅より徒歩3分。三条通・御幸町通の交差点北西角[グランマーブル]店舗内2階
お問い合わせ Gallery PARC (正木・武本・村田) 〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル [グランマーブル] 2F
【Tel&Fax】075-231-0706 【Mail】info@galleryparc.com

色を漕ぐ

Swimming in Colors

山本聖子
yamamoto seiko exhibition

2016年9月10日 | 土 - 9月25日 | 日 11:00~19:00 ●月曜休廊・金曜日は20:00まで

statement

“世界”と“自分”を確認する

私が幼いころから育った場所は、“千里ニュータウン”という1970年の大阪万博に伴って開発されたニュータウンだ。それは当時、“未来都市の象徴”であっただろうし、そして現在も、高層マンションが立ち並び、生活に必要とされるものは全て完備された、何不自由ない便利で美しい、落ち着いた街である。

しかし私はこういった街の様相に違和感があった。人々は与えられた場所で与えられた方法で同じように生活し、“プライベート”や“個性”は極端に守られ、人間が生きているなら生じるであろう“手ざわり”のようなもの、“におい”のようなものが全く感じられないのである。目の前の世界は、どこを取っても無機質で、均質化しているように思われた。

私はそんな風景の中で、五感が麻痺し、自分自身の存在が稀薄になっていくかのように感じられた。

私の制作の根底には、このような身体への焦燥感がある。つまり、作る過程で素材のディティールを知ることや、単純作業で身体を繰り返し使うことは、私にとって“世界”と“自分”の存在を確認するための、最初の方法であったと言える。

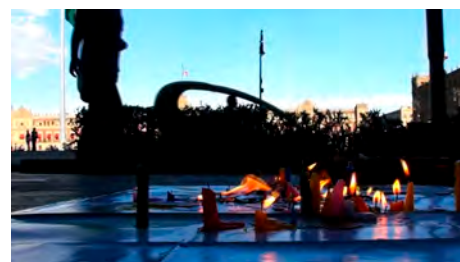
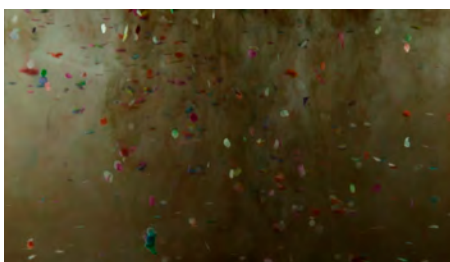
そして今は、自分の身体そのものを世界の中に放り込み、そこで生きてみることによって、やはり同じように“世界”と“自分”を確認している。

そこから生まれる表現は、呼吸のように、あるいは風景画のように、目に映る世界や他者を反映しているに過ぎない。しかし「私にはこう見える」と晒していくことが、私を生んだ社会に対する問いになると信じている。

2014年12月01日

山本聖子

works



“darkness”
2014

無数の色が落下し、混ざりあい、最初、白かった背景は黒へと変化する。使っているのは、メキシコの祝い事などに使われる紙吹雪である。

極彩色の間
2014

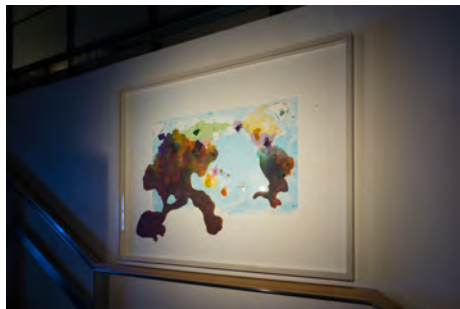
メキシコシティ中心部のソカロ広場で行ったパフォーマンス。国ごとに色分けされた世界地図の上に、各国の色に合わせて同じ色のろうそくを1本ずつ置いていく。ろうそくは溶けだし、それぞれの色が混ざり合い、「黒」あるいは「闇」が流れる。

色を漕ぐ

Swimming in Colors

山本聖子
yamamoto seiko exhibition

2016年9月10日 | 土 - 9月25日 | 日 11:00~19:00 ●月曜休廊・金曜日は20:00まで



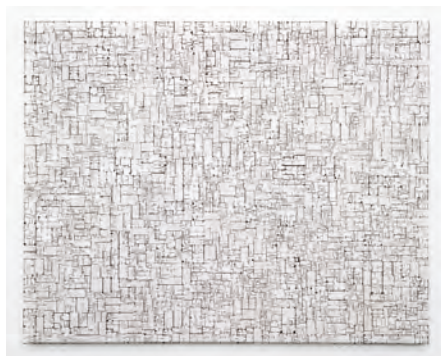
個展 白い暴力と極彩色の闇 会場風景
2014
GalleryPARC

メキシコ、オランダでのレジデンスを終えて初めて開催した個展。メキシコで制作した映像作品《"darkness"》《"white"》《plastic soup》、オランダで制作した《オランダに山をつくる》、帰国後に日本で制作した新作《Unconscious》を発表。会期中には《極彩色の闇》のパフォーマンス制作や、トークイベントなどを開催した



《ただ、山である。》

2011 112cm×1664cm
ビニールシート、六甲高山植物園の風景
「六甲ミーツ・アート芸術散歩2011」展示風景



《solid drawing of emptiness》

2011 200cm×250cm×9.5cm
物件広告の間取り図、ラミネート、アクリル、木製パネル



《frames of emptiness》

2011 105cm×105cm×180cm
物件広告の間取り図、ラミネート、鏡、アクリル、木、ミクストメディア
メガアート倉庫 (大阪) での展示(2013)

C.V

山本聖子

1981年京都府生まれ 大阪府在住
2004年、大阪芸術大学芸術学部美術学科立体コース 卒業
2006年、京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術表現専攻修了
2013年5月~2014年4月、ポーラ美術振興財団在外研修員としてメキシコシティに滞在。

■個展

- 2015 白い暴力(1M1A-DEAR / メキシコシティ)
 - 白い暴力と極彩色の闇(GalleryPARC)
- 2013 からっぽの森(ベラクルス州立ハラバ彫刻公園内ギャラリー / メキシコ)
 - frames of emptiness(見せる収蔵庫・メガアート倉庫 / 大阪)
- 2012 円の手ざわりはつるつるかざらざらか(ギャラリーPARC)
 - 細かいことは気にせずに、ただそこに在るものを見つめてほしいのだ(中之島4117内ポストギャラリー / 大阪)
- 2010 the empty view 画廊からの発言・新世代への視点
2010企画(コバヤシ画廊 / 東京)
- 2009 空の風景(コバヤシ画廊 / 東京)
- 2006 私とあなたは同時にそれを見た(ギャラリー16 / 京都)

■おもなグループ展

- 2015 Message2015(コバヤシ画廊/東京)
 - *2012年を除き2009年以降毎年参加
- 2014 レジデンスプログラム成果発表展(DORDTYART/ドルトレヒト、オランダ)
 - 1:はかない断片(ギャラリー-dos puntos/メキシコ)
- 2013 ボーダーレスのゆくえ(なんばパークス内ホール/大阪)
- 2012 二次元と三次元のはざま(artspace ARTZONE/京都)
 - 六本木アートナイト・東京ミッドタウンプログラム ストリートミュージアム(東京ミッドタウン内/東京)
 - 日常の冒険-現代の若手作家たち-(札幌大通駅地下ギャラリー-500m美術館/北海道)
 - 六甲ミーツ・アート芸術散歩2012(六甲高山植物園)
 - 第1回コンテンポラリーアートハラバ国際会議関連企画展覧会「空虚と風景」(ベラクルス州立大学付属APギャラリー/ハラバ、メキシコ)
- 2011 現代美術の展望「VOCA展2011-新しい平面の作家たち」(上野の森美術館/東京)
 - 六甲ミーツ・アート芸術散歩2011(六甲高山植物園)
 - Tokyo Midtown Award 2011(東京ミッドタウン)
- 2010 吃驚(国際芸術センター青森/青森)
- 2009 Polyphonic.(KCPF ギャラリー/韓国・ソウル)
- 2007 Xhibition(ギャラリー-RAKU/京都)
- 2006 京都造形芸術大学卒業制作展(京都市美術館/京都)
- 2004 大阪芸術大学卒業制作選抜展
- 2003 羽解展(大阪芸術大学内/大阪)

■上映

- 2014 Between You & Me"プロジェクト(ブレダ/オランダ)

■受賞

- 2011 六甲ミーツ・アート芸術散歩2011 公募大賞
 - Tokyo Midtown Award 2011アートコンペグランプリ
- 2004 学長賞(大阪芸術大学卒業制作展)

■レジデンス、奨学金など

- 2015 朝日新聞文化財団助成 個展
- 2014 DORDTYART インターナショナルレジデンスプログラムでドルトレヒト(オランダ)に滞在。
- 2013 ポーラ美術振興財団在外研修員としてメキシコシティに滞在。
- 2014 朝日新聞文化財団助成
- 2010 国際芸術センター青森 秋AIR プログラム

■パブリックコレクション
千島土地株式会社
株式会社グランマーブル